

OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 萩原佑介
所属 (School) 医学部 医学科
学年 (Grade) 3 年

留学先 (Name of overseas institution)
エルサルバドル
留学期間 (study abroad period)
2022/10/8~2022/10/29

記入日 (Date) 2022/11/13

留学レポート Study Abroad Report

私は 2022 年の 10 月にエルサルバドルという国に渡航しました。エルサルバドルは中米にある四国程の大きさの発展途上国です。私はこの渡航が決まるにあたって何人かに「エルサルバドルって国知ってる?」と聞いてみましたが、場所やどのような国かを答えられる人はいませんでした。ではなぜ私はそのような国に渡航したのでしょうか。実は私の渡航は留学とは少し異なります。医学科には 3 年後期に医学研究推進コース 3 という授業があります。これは自分の興味がある基礎系の教室で基礎医学・社会医学に関する研究を行う、というものです。そこで私は「寄生虫学」という教室に入りました。寄生虫学教室ではその名の通り、寄生虫に関する研究をしているところです。そして私は「トリパノソーマ」という寄生虫に興味を持ちました。そしてトリパノソーマは中南米に多い寄生虫です。そうです。私はエルサルバドルに研究をするために渡航しました。それでは私はエルサルバドルで何を研究し、何を見て、どのような経験をしたのかについて書いていこうと思います。

<エルサルバドルでの研究>

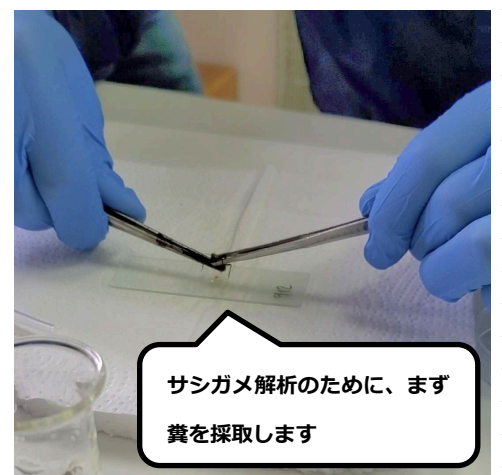
先程書いたように私はエルサルバドルに研究目的で渡航しました。研究は「シャーガス病」についてです。この病気はトリパノソーマに感染することで発症します。慢性期には心肥大や小腸の肥大を引き起こし最悪死に至らしめる恐ろしい病気です。エルサルバドルでの滞在期間は、教室の先生方が執り行っているプロジェクトの大きさに比べるととても短かったため、そこまで深いことを研究することはできませんでした。しかし、先生方の協力のもと、基礎医学的側面と臨床医学的側面の双方からこのシャーガス病についてたくさん学ぶことができました。

まず基礎医学的側面から私が何を体験したのかを書こうと思います。様々なことをしましたが、最も大きな経験は虫取りでしょう。私が捕まえに行ったのは「サシガメ」と呼ばれるカメムシの一種です。ヒトは様々な経緯でトリパノソーマに感染しますが、寝ている間にサシガメに刺された際に感染する場合があります。そのため、サシガメを調べることはシャーガス病の問題を解決することにとっても大切です。私たちが私はエルサルバドルの首都から車で 3 時間ほどの田舎へ行き、一軒一軒民家を訪ねて回り、家の中にサシガメがいないかどうかを調査しました。私たちは大量のサシガメが隠れている家を発見し、見つけたサシガメを虫かごに入れて研究室に持ち帰りました。次に捕まえたサシガメたちがトリパノソーマに感染しているかどうかを調べました。結果は 30% 程のサシガメが感染していることが分かりました。

次に臨床医学的側面からどのような経験をしたのかについて書こうと思います。私はエルサルバドルで実際にシャーガス病を診断している医師にお会いすることができました。また、実際にシャーガス病の患者を診察している場面を見学させていただきました。また、その際にシャーガス病患者の方の心電図を見せていただけたりと貴重



民家を回る研究チーム一行



サシガメ解析のために、まず糞を採取します

な体験も経験しました。その医師曰く、エルサルバドルにはシャーガス病患者が大勢いるにも関わらず、いまだに診断できる医師は少ないとのことでした。現地の医療に触れることで教科書だけでは分からない、その病気の実態や現地での状況などを感じ取ることができました。

<エルサルバドルで得た経験>



実はエルサルバドルへ渡航する前に心配していたことが一つありました。それはエルサルバドルの治安です。2015年の殺人率は10万人あたり100件以上と圧倒的な世界一を記録していました。エルサルバドルとはどんな場所なのであろうか。どんな人々が住んでいるのであろうか。私は心配する一方で日本とは明らかに異なるであろうその空間に興味を持っていました。エルサルバドルに着いてまず思ったことは思ったよりも発展しているということです。街中にマクドナルドもあればケンタッキーやスタバのドライブスルーもあります。至って普通の街中なのです。道路は広く綺麗でたくさんの車が走り、ガラス張りの高層ビルもあります。

エルサルバドルで会う人々はみんな優しい人ばかりでした。向こうでお世話になった研究室の方々とはわからないことだらけの私を手助けしてくれました。向こうの母国語はスペイン語なので、お互い第二言語である英語での会話でしたが、慣れないはずの英語でする会話は本当に楽しいものでした。大学構内にいた現地の医学生に話しかけ友達になったりもしました。一緒にアイスを食べに行ったり、解剖学教室を見学させて貰ったり、演劇を見たのもとてもいい思い出となりました。初対面なのに色々な事を語り合い、一緒に笑いあってくれた事はとても嬉しかったです。



また、エルサルバドルの人はとても陽気でした。観光でダウンタウンの広場に行ったとき、中心部で何十人もの人々が伝統音楽に合わせて踊っていました。それを遠目に私と友達は眺めていたのですが、その輪の中にいた人が突然私達の腕を掴んで踊りの和の中に引っ張りこんだのです。もちろんそんなこと経験したことも無かったので最初は訳も分からず混乱していましたが、無茶苦茶に手足を動かしているうちに楽しくなってきました。そのまま40分も踊っていました！大勢と踊っていると自然と笑顔が溢れてきて楽しかったです。最後には一緒に踊った人からおやつを貰ったりもしました。

つまりこのような経験から何が言いたかったかということ、結局は自分で体験してみないと何も分からないと言うことです。エルサルバドルに行く前はグーグルやYouTubeで見る情報しか得ることができませんでした。そこに書いてあったのは怖いことばかりでした。しかし実際はどうでしょうか。私が見たのは普通の街で暮らす、明るくて陽気で優しい人々でした。もちろん、私が見たのはエルサルバドルの全てではないですからネットに書いてあるような地区もあるのでしょうか。しかし、私が出会ったような人々がそこで生きて生活しているのもまた事実なのです。

<まとめ>

海外に学びに行くとはどういうことなのでしょう。今回の渡航が始まるにおいてももちろんトリパノソーマについて深く学びたいという気持ちはあったのですが、それとは別に漠然と自分の知らない世界を見てみたいという気持ちがありました。結論を言いますと、今回の渡航では自分の知らないことを多く学ぶことができました。それは言語であったり、人々であったり、社会システムであったり、街並みであったりします。国というのは画一的な存在なので、その中にいる間は外の世界があることを知ることができても、それらが実在していることを体感するのは難しいのではないのでしょうか。四方を海に囲まれ、ほぼ日本人しかいない日本であればなおさらだと思います。しかし、海の向こうには様々な国があり、そこには様々な言語や人や文化や街があります。今回の渡航ではエルサルバドルに渡航するついでにアメリカとカナダにも少しだけ立ち寄りましたが、それぞれがやはり日本とは全然異なる特色を持った国でした。今まで数か国に旅行しましたが、このような体験は旅行ではあまり味わえないことだと思いました。実際に現地の人とコミュニケーションを密にとる留学などの手段で初めて味わえる体験や成長だと思います。最後になりましたが、今回の渡航を支援してくださった、寄生虫学教室の皆様、学務課の皆様、そして現地でお世話になった、研究室の皆様、通訳の皆様、本当にありがとうございました。おかげさまで無事渡航を終えることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。残り3年の大学生活ですが、たくさんのことを学び、自分の人生を一つずつ形作っていきたいです。

最後に、3か国の観光写真をちょっと載せます！

